

## 第3回 櫛田川自然再生推進会議 議事概要 (案)

日 時：平成 29 年 8 月 1 日 (火) 14:00~16:10

場 所：松阪市橋西地区市民センター

1. 開 会
2. 挨拶 (三重河川国道事務所長)
3. 委員紹介
4. 議 題

## (1) 第2回櫛田川自然再生推進会議議事概要について

○第2回推進会議の議事概要について事務局から説明を行い、了承とされた。

## (2) 平成 28 年度の取り組みについて

○平成 28 年度の取り組み結果について、事務局から以下の報告を行い、了承とされた。

- ・櫛田可動堰遡上環境調査、魚類生息分布調査、アユ産卵床調査を実施
- ・第2回技術専門部会及び、第1、2回地域連携専門部会を開催
- ・新屋敷取水堰において左岸新設魚道の整備を実施
- ・櫛田可動堰試験モニタリング現地見学会を実施

## (3) 技術専門部会からの報告事項について

○平成 28 年 11 月に開催された第2回技術専門部会の開催結果について、事務局から以下の報告を行い、了承とされた。

- ・H28 年モニタリング調査結果及び H29 モニタリング方針
- ・新屋敷取水堰における魚道改良設計と工事予定

## (4) 地域連携専門部会からの報告事項について

○平成 28 年 7 月及び平成 29 年 2 月に開催された第1、2回地域連携専門部会の開催結果について、事務局から以下の報告を行い、了承とされた。

- ・地域連携専門部会の運営方針と進め方
- ・川と地域のつながりの再生の観点からの「課題と目指すべき方向性」、「目標達成のための方策」、「それぞれの役割と活動方針」、について意見交換を実施
- ・当面の柱としての取り組みについて、「安全で快適な河川利用の推進」、「増加する外来魚対策」、「櫛田川のアユを認識してもらう」を提案

(5)平成 29 年度の予定について

○平成 29 年度の推進会議や活動、モニタリング・工事等の予定について、事務局から以下の説明を行った。

- ・推進会議（8 月 1 日開催）、技術専門部会（11 月頃予定）、地域連携専門部会（時期は調整中）、新屋敷取水堰改築等の現地見学会（平成 30 年 3 月頃）を予定。
- ・試験モニタリング調査は、魚類遡上環境調査（5 月下旬、7 月上旬実施）、外来魚産卵床調査（5 月下旬実施）を行い、魚類生息環境調査（8～9 月）、魚類産卵床調査（10～11 月）、を予定。
- ・新屋敷取水堰の魚道については、H28 年度は中央左岸扇形魚道と台形型魚道を設置し、中央魚道の改良は、平成 29 年度内の完了を目指して調整中。（三重県中勢水道事務所）

○委員より以下の意見や情報提供を頂いた。

- ・新屋敷取水堰に新しい魚道ができ、上流の漁協では新屋敷取水堰下流でのアユの汲み上げ放流ができなくなることを心配している。途中で堰もあり遡上が難しいと考えられ、上流のことも考えて頂きたい。（櫛田川上流漁協 立岡委員）  
→今のところ、下流で遡上できないということから下流から取り組んでいる。遡上が増えるようになったら、上流の方も考えていく必要はあると考える。
- ・新屋敷に新しい魚道ができたことは有難い。上流にも 3 箇所に堰があり、魚道が上りにくいと考えられるので、調査をして頂きたい。（香肌峡漁協 水木委員）  
→国交省の管理区間は津留のあたりまでであり、上流の県管理区間は国の予算ではできない。調査の要望については県に連絡する。
- ・水産資源の分配という観点から見て、どこまで遡上させるのが良いかは考えていく必要がある。（松尾座長）
- ・この事業の目標としては、かつての櫛田川に戻すことと考える。かつて上流まで上っていたのであれば、上らせる必要があると認識している。櫛田川の自然再生なので、県の関係者も参加してもらい、議論できるようにすべきと考える。（河村委員）

(6)H29 遡上環境調査結果等（速報）について

○本年度実施したモニタリング調査等の結果速報について、事務局から以下の説明を行った。

- ・新屋敷取水堰の新設魚道（左岸）において魚道遡上調査を 5 月下旬に実施。500～1500 個体/日のアユが遡上し、体長 4～6cm の小さい個体の遡上を多く確認。その他の魚類等としては、回遊性底生魚のゴクラクハゼやエビ・カニ類の遡上を確認。
- ・櫛田可動堰において魚道の試験改良を実施し、魚道遡上調査を 5 月下旬に実施。

魚道内に放流した標識アユの約3割が魚道出口に遡上（改良前は約1割）し、魚道内構造の改良効果を確認。

- ・櫛田可動堰において魚道入り口の仮設魚道、呼び水効果を高める仮設減勢工を設置し、魚道及び堰下流河川におけるアユ等魚類の遡上状況の調査を7月上旬に実施。増水後にアユ遡上数が増大し3日間で約6,000個体の遡上を確認。このうち、右岸魚道の遡上は約9割で、平常時、増水時ともに右岸魚道の呼び水効果が大きいことを確認。
- ・櫛田可動堰下流における遡上アユのサイズは概ね体長6~12cmで、5月下旬と7月上旬では大きな変化はなかった。
- ・回遊性底生魚については、7月上旬の櫛田可動堰下流における調査で、多くはないがボウズハゼ、ウキゴリ、ヨシノボリを確認。右岸魚道の遡上は確認されなかった。
- ・外来魚産卵床調査を5月下旬に一部の箇所で行った。櫛田可動堰下流において、流れが緩やかで砂礫が堆積した環境の場所にコクチバスの産卵孵化後の稚魚と親魚を確認。

#### (7) 全体を通しての意見等

○今後の進め方や課題等について、以下の意見や提案を頂いた。

- ・この推進会議では43団体が集まっているが、普段から情報共有を進めていくことが必要である。情報交換のためのプラットフォームを作っていくと良い。（松尾座長）
- ・コクチバスは堤内地の用水路でも増えている。櫛田可動堰付近ではコクチバスが増えて、アユも食べられることが想定される。水の流れているところは連続しており、コクチバスの問題は流域で考えないといけない。可能であれば漁協でも先生の指導を受けながら調査してみると良い。それぞれの地域で、できることから自発的に取り組んでいけると良い。  
朝見地区では、小学校と一緒にモニタリングを行っており、祓川でも同様の取り組みを行っている。第一漁協でもイベントが企画されている。コクチバスについては、みんなで川を見て情報を伝えることを考えていくと良い。（北村委員）
- ・地域連携専門部会報告の中で、安全で快適な河川の利用として取り組みのイメージがまとめられているが、川へ下りていく方法を考えて欲しい。予算を取って、モデル的にでも実施していくことはできないか。地域連携専門部会は、今後どのように進めていく予定なのか。（相可二区 浅井委員）  
→河川の維持管理として取り組んでいけるところもある。個別のアクセスについては、協働できるところ、河川管理としてやるべきところを切り分けて、その中で協力して頂くこともあるので、お願いしたい。

地域連携部会のスケジュールについては、秋ぐらいには開催できるよう、調整していく。

- ・ 祓川では、美化推進委員会で自分たちでゴミを取ったりしている。朝見まちづくり協議会でも小学校と一緒に取り組みを行っている。ある程度できることをやっていると良い。朝見まちづくり協議会や漕代まちづくり協議会のノウハウもある。(北村委員)
- ・ 外来魚のオオクチバス、ブルーギルは止水域に生息し、溜池等から河川に流下してくるが、遊泳能力が高くないため、台風等で流出していなくなる。コクチバスは流水環境にも適応し、川に入ると居着くことになるため、駆除していかないと危険である。県内では、名張で見つかっており、木津川ではアユの食害もある。雲出川でもコクチバスが増えている。櫛田川でも増えているようなので、力を入れて取り組む必要がある。(河村委員)

#### (7) その他

○櫛田川河川漁協のHP が開設されたとの情報提供を行った。

## 5. 閉 会